

(5)今年度の取り組み・重点事項							(6)取り組み実績(年間)					
	高齢者福祉計画	取り組み・重点事項	内容(何を、どのように)	活動指標 (実施時期・回数)	場所	担当者	ア 年間評価	イ 活動数値	ウ 達成状況	エ 年間の実績	オ 未達成理由	カ 今後の方向性
基本目標3 いのちと権利を見守る地域社会	5 孤立死の防止に向けた取組の充実	⑧重層的な問題も含め、生活上の不安を抱える高齢者への訪問や見守り体制強化	①課題が複雑化・複合化しているもの等は、様々な機関や手法を活用した連携方法を検討します。	※取り組み内容(成果)が指標 A:例年より大きな実績をあげた。新たな取り組みが成果をあげた。 B:例年より実績をあげた。新たな取り組みを実施。 C:例年並み、または計画どおりに実施。 D:例年、または計画をやや下回る。 E:実施できなかった。	豊田・金田公民館 介護事業所 豊田・金田福祉村自治会館 等	社会福祉士を中心に全職員	B	—	達成	運営推進会議や福祉村会議等の出席時、出席者に向けて地域の安否確認や見守り等の願いをし、必要時は情報共有をお願いしている。民生員からの連絡や出向きサロン等で参加者と情報共有をしている。必要時には訪問し支援に繋がるよう活動している。	—	継続して運営推進会議や福祉村会議、民生定例会等へ出席し、出席者へ地域の安否確認や見守り等のお願いする。 民生員からの連絡や出向きサロン等で参加者と情報共有を継続して行う。<

3 権利擁護事業等

(1)前年度の取り組みに対する評価・実績													
サロンや地域のイベントに参加し、普及啓発を行った。認知症サポーター養成講座を年間で合計4回実施。ひらつかにし広報誌バラ色通信は年2回発行、地域回覧や配布、配架をする事で、全世代に、認知症の知識の普及啓発を行った。また、高齢者虐待や成年後見制度においても、世代に合わせて普及啓発を行った。終活に関しても以前より抵抗がなくなったようで、高齢者学級で紹介する事ができた。													
(2)主な地域課題				(3)主な地域課題の改善策・解消策			(4)主な地域課題の対応状況等(後期)						
認知症の症状が深刻な状況となってから相談に来る事が増えてきている。認知症に関しての知識がない、偏見がある等もあり、相談から先に進まない事も多い。 終活、エンディングノートに関しては、令和5年度に、高齢者学級で紹介する事ができたが、まだ、抵抗があるとの地域役員、地域住民がいるため、周知の場選択の際に、慎重													

(5)今年度の取り組み・重点事項							(6)取り組み実績(年間)					
	高齢者福祉計画	取り組み・重点事項	内容(何を、どのように)	活動指標 (実施時期・回数)	場所	担当者	ア 年間評価	イ 活動数値	ウ 達成状況	エ 年間の実績	オ 未達成理由	カ 今後の方向性
基本目標3 いのちと権利を見守る地域社会	5 孤立死の防止に向けた取組の充実	⑧重層的な問題も含め、生活上の不安を抱える高齢者への訪問や見守り体制強化	①課題が複雑化・複合化しているもの等は、様々な機関や手法を活用した連携方法を検討します。	※取り組み内容(成果)が指標 A:例年より大きな実績をあげた。新たな取り組みが成果をあげた。 B:例年より実績をあげた。新たな取り組みを実施。 C:例年並み、または計画どおりに実施。 D:例年、または計画をやや下回る。 E:実施できなかった。	①包括事務所 ②各訪問宅、公民館、包括事務所など	全職員	D	—	未達成	独居高齢者への安心カードの配布や、情報提供時の訪問、もしもに備える働きかけ、親族との関わり支援等を行った。	役員の交代に伴い引継ぎがされなかったのか、定例会参加の声掛けがなかったため。	安心カードの活用と、情報提供を受けての見守り・支援を継続していく。また、以前のように定例会へ参加させていただけるよう役員との連携を図る。
			②ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯は増加傾向にあることから、孤立死の防止に向け、地域における安否確認や見守り体制の強化を行う。 ・計画目標:民生委員や地域からの情報提供があった高齢者宅を訪問し安否確認を実施。新たに民児協の定例会において安心カードの普及啓発を実施。 (前年状況:民生委員や地域からの情報提供があった高齢者宅を訪問し安否確認を実施。、民生委員・自治会と情報共有を実施。)									
	6 権利擁護事業の充実 ①日常を支える権利擁護事業の推進	⑨権利擁護のための相談支援及び普及啓発	日常生活について権利擁護事業による支援を必要とする方に対して成年後見制度及び日常生活自立支援事業の利用や成年後見利用支援センターの活用等を促し、その生活を支援します。 ・計画目標:ひらつかにし広報誌パラ色通信で普及啓発を行う。認知症サポーター養成講座などにより成年後見制度の説明を取り入れ、制度の利用につなげる。 (前年状況:ひらつかにし広報誌パラ色通信で普及啓発を行う。認知症サポーター養成講座などにより成年後見制度の説明を取り入れ、制度の利用につなげる。)	※普及啓発の内容、制度利用実績が指標 A:制度の利用1人以上。 B:新たな普及啓発を実施。 C:制度の案内3人。 D:例年、または計画をやや下回る。 E:実施できなかった。	包括事務所、講座開催場所、パラ色通信回覧先、配架先	社会福祉士を中心として全職員	C	—	達成	成年後見制度の案内 3件 日常生活自立支援事業申込 1件 (うち利用に繋がった件数 不明) 成年後見利用支援センター 1件	—	認知症の方に限らず、子がなく、親族が遠方疎遠の方々や障害のある子が居る高齢者へ制度の説明や必要性を説明する事もあった。必要な方へ各種制度の紹介が行えるよう、協議体や地域の民生委員等と連携をしていく。
		⑩自分らしい人生の締めくくりを迎えるための活動(終活)支援	自分らしい人生を生き、終末期を迎えられるように支援するため、出張講座、講演会等でエンディングノート等を活用した普及啓発を行う。 ・計画目標:講話を2回実施、ノートを35冊配布。 (前年状況:講話を2回実施、ノートを35冊配布など。)	※終活講座・講話が指標 A:年3回以上実施。 B:年2回実施。 C:年1回実施。 D:ノート等の配布のみ。 E:実施できなかった。	講話場所	社会福祉士を中心として全職員	B	【終活講座、講和の回数】 2回	未達成	社会福祉士資格のある市内ケアマネへ講師依頼を行い1回開催。12月片岡サロン内にて包括職員が1回開催。 ノート配布28冊	ノートについては講話先で希望者へ配布したり、総合相談等で案内を行なったりしたが、依然として拒否感を感じる方もおり目標冊数に届かなかった。	総合相談時に個別に説明や紹介する事が多かった。地域の役員へも拒否感なく役立てて頂けるよう今後も説明をしていく。
	②高齢者虐待を予防し、早期発見・早期対応に努める。	⑪高齢者虐待の予防、早期発見のための講話等による普及啓発をする。	高齢者虐待の予防、早期発見をするために市民、関係機関、施設従事者等を対象とし、積極的に普及啓発を実施していきます。 ・計画目標:市民を対象に実施。合計1回。 (前年状況:市民を対象に実施。合計1回)	※普及啓発の回数が指標 A:年4回以上実施。 B:年2～3回実施。 C:年1回実施。 D:資料等の配布のみ。 E:実施できなかった。	講話場所	社会福祉士を中心として全職員	C	【普及啓発の回数】 1 回	達成	社会福祉士資格のある市内ケアマネへ講師依頼を行い開催できた。	—	協議体や民児協等を通じ、今後も普及啓発をおこなっていく。
		⑫高齢者虐待対応マニュアルに基づく相談対応をし、事例検討をする。	高齢者虐待を予防し、また発生時に早期に対応するため、高齢者虐待対応マニュアルに基づく相談対応をすると共に事業所内で事例検討を行う。 ・計画目標:事業所内で1件の事例検討。 (前年状況:事業所内で1件の事例検討。) ※ここの事例検討は日々のミーティングを除く。	※高齢者虐待対応マニュアルに基づく相談対応が指標 A:困難ケースを適切に対応。 B:虐待ケースを適切に対応。 C:相談対応を実施。 D:相談対応が難航。 E:実施できなかった。	包括事務所	社会福祉士を中心として全職員	C	—	達成	相談件数6件 都度、基幹型や高齢福祉へ情報共有を行い支援している。 12月包括会議後に事例検討を実施(1件)。	—	虐待と思われるケースの通報等が入った時は複数人でマニュアルに基づき対応し、所内各職種へも共有する。疑問等多事例検討をおこなう。
7 災害に対する取組の推進		⑬避難行動要支援者制度の周知、地域との連携強化	避難行動要支援者支援制度の周知啓発・登録の推進・マッチング率向上・避難支援等関係者との連携強化を通して、避難行動要支援者の取組の実効性向上と安心安全の確保を図ります。 ・計画目標:①チラシ等の配布や回覧等で周知啓発。 ②地域の住民を対象に新たに周知啓発。 ③市災害対策課を講師とし、民生委員児童委員を含めた勉強会をセンターが実施。 (前年状況:①チラシ等の配布や回覧等で周知啓発。②地域の住民を対象に周知啓発。)	※取り組み内容(成果)が指標 A:①または②に加え、③を実施。 B:①②を実施。 C:①を実施。 D:チラシ等の窓口配架のみ実施。 E:実施できなかった。	①包括事務所、住民宅、講話場所 ②講話場所 ③講話場所	全職員	A	—	達成	広報誌パラ色通信でわかりやすくまんがも添えて記事を掲載。 2/8民生委員を含む吉沢老人会メンバーへ、市災害対策課を講師に勉強会を実施。	—	チラシ、口頭説明での周知を行い、地域との勉強会も定期的に実施できるよう働きかけていく。

2 総合相談支援業務等

(1)前年度の取り組みに対する評価・実績												
○包括の周知について、多世代が集まる公民館、福祉会館で開催される催事に健康相談会やコグニサイズの活動で参加したり、集合住宅、コンビニエンスストア等に訪問しポスター掲示、チラシを配架するなど働きかけた。その成果として、認知症サポーター養成講座の開催依頼、安否確認を含む個別相談の受付につながった。 ○一つの世帯で複数の課題を抱えているケースは、行政、医療機関、障害・福祉分野の専門機関、介護事業所、地域福祉団体等、多機関で関り、支援者を増やし、つなぐ取り組みを行った。 ○エリア内外の病院、薬局、歯科医院を訪問し包括の周知と歯科医院にはオーラルフレイル予防普及の協力依頼の挨拶周りを行った。地域住民に対してはリーフレットや包括たよりをういて在宅医療や健康診断について普及啓発を行った。												
(2)主な地域課題				(3)主な地域課題の改善策・解消策			(4)主な地域課題の対応状況等(後期)					
○高齢者のみの世帯や日中独												

(5)今年度の取り組み・重点事項							(6)取り組み実績(年間)					
	高齢者福祉計画	取り組み・重点事項	内容(何を、どのように)	活動指標 (実施時期・回数)	場所	担当者						

4 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務等

(1)前年度の取り組みに対する評価・実績												
○なでしこ地区にて小地域ケア会議を開催												

3 権利擁護事業等

(1)前年度の取り組みに対する評価・実績												
・認知症カフェを偶数月に開催し、少												

(5)今年度の取り組み・重点事項							(6)取り組み実績(年間)					
	高齢者福祉計画	取り組み・重点事項	内容(何を、どのように)	活動指標 (実施時期・回数)	場所	担当者	ア 年間評価	イ 活動数値	ウ 達成状況	エ 年間の実績	オ 未達成理由	カ 今後の方向性
基本目標3 いのちと権利を見守る地域社会	5 孤立死の防止に向けた取組の充実	⑧重層的な問題も含め、生活上の不安を抱える高齢者への訪問や見守り体制強化	①課題が複雑化・複合化しているもの等は、様々な機関や手法を活用した連携方法を検討します。 ②ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯は増加傾向にあることから、孤立死の防止に向け、地域における安否確認や見守り体制の強化を行う。 ・計画目標:安心カードの配布や担当の民生委員の確認を実施。新たに町内会連合会の総会に出席し、安心カードの説明と啓発を実施。 (前年状況:安心カードの啓発や説明を実施など。)	※取り組み内容(成果)が指標 A:例年より大きな実績をあげた。 新たな取り組みが成果をあげた。 B:例年より実績をあげた。新たな取り組みを実施。 C:例年並み、または計画どおりに実施。 D:例年、または計画をやや下回る。 E:実施できなかった。	①包括事務所 ②富士見公民館など	主担当:管理者 副担当:職員全員	C	—	達成	あんしんカード配布は前期45名に加え、後期も引き続き社協主催の食事会の参加者や個別で希望された方に配布		

4 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務等

(1)前年度の取り組みに対する評価・実績												
・民生委員と地域の居宅介護支援事業所との交流会を実施し、地域課題やケースについての相談や意見交換が行えるようにした。 ・個別ケア会議を4回開催し、困難と言われる事例について、地域での支援方法を模索することができた。 ・協議体と地域ケア会議を同時に開催し、地域課題について意見を交換することができた。												
(2)主な地域課題				(3)主な地域課題の改善策・解消策			(4)主な地域課題の対応状況等(後期)					
・介護予防ケアマネジメントを委託している居宅介護支援事業所においても、事業所やケアマネの理解に差があり、十分に予防ケアプランの立て方や評価について認識できていない所がある。 ・協議体や小地域会議をおこない地域課題については十分認識できているが、その解決方法について十分に議論されていない。				・居宅介護支援事業所と十分な連携を図り、課題を共有できる関係性を構築する。 ・小地域ケア会議・協議体で行った課題解決に向けて、新たなネットワークを構築する。			・居宅介護支援事業所と十分な連携を図り、課題を共有できる関係性を構築できるよう、同行訪問、カンファレンスへの出席など積極的に行っている。予防ケアプランの立て方については委託マニュアルで説明をしても事業所、ケアマネの理解度に差が出ている。繰り返し説明をし理解していただく					

令和6年度 平塚市地域包括支援センターまつがおか 事業計画書及び評価表

1 介護予防ケアマネジメント事業等

(1)前年度の取り組みに対する評価・実績												
・4月から新たに始まった「伊勢山青空サロン」により伊勢山地区の地域組織(伊勢山サロン・自治会)との関係性が構築出来てきている。伊勢山地区のお祭りにも参加し多世代のかたへのアプローチとして包括独自のチラシを配布したり健康測定(ダイエットアナライザー・血管年齢測定・脳の健康チェック・フレイル)を行い包括の周知と介護予防の啓発ができた。 ・大原地区の地域サロンの参加者が数名と低迷しており包括と地域の役員とで検討を続け、民生委員やサロンの代表の方々と相談してR6年4月から、大原公園にて他の地区と同様にラジオ体操とコグニサイズをおこなっていく計画を立てている。「青空寄り道サロン」の参加者は1,233名「伊勢山青空サロン」の参加者は1,427名で地域で体操の輪が広がってきている。公園で行う体操であるため、参加し易いようで参加者も増えてきている。												
(2)主な地域課題												

2 総合相談支援業務等

(1)前年度の取り組みに対する評価・実績											
・包括の認知度を上げるため、まつがおか独自のチラシを作成											

令和6年度 平塚市地域包括支援センターゆりのき 事業計画書及び評価表

1 介護予防ケアマネジメント事業等

(1)前年度の取り組みに対する評価・実績											
・アセスメントや基本チェックリストを行い介護保険ありきではなく、総合事業・生活支援サービス・ゆりのきサロン・老人福祉センター・公民館事業の紹介を行い地域支援につなぐことができた。 ・介護予防マネジメントは、新規相談も増加傾向であり、圏域の要支援者の状況把握をすることも含め直営で月約200件のマネジメントを対応。委託ケースは月約40件でサービス開始時・更新時・変更時のサービス担当者会議への出席に努めた。 ・健康チャレンジ普及啓発やフレイル対策事業では、地域の高齢者が参加しやすい内容と開催場所を検討し計画を上回る回数を実施できた。講座等参加者にアンケートを実施し、健康や介護予防への取り組みが大切であるに関心を持ち、自ら活動するきっかけとなった。また、通いの場支援として保健師が伺い、今後の支援への広がりが見えてきた。											
(2)主な地域課題				(3)主な地域課題の改善策・解消策			(4)主な地域課題の対応状況等(後期)				

2 総合相談支援業務等

(1)前年度の取り組みに対する評価・実績											
・困難ケースに対し法人内でのケース検討や職員のスキルアップにつながる研修											

(5)今年度の取り組み・重点事項							(6)取り組み実績(年間)					
高齢者福祉計画		取り組み・重点事項	内容(何を、どのように)	活動指標 (実施時期・回数)	場所	担当者	ア 年間評価	イ 活動数値	ウ 達成状況	エ 年間の実績	オ 未達成理由	カ 今後の方向性
基本目標3 いのちと権利を見守る地域社会	5 孤立死の防止に向けた取組の充実	⑧重層的な問題も含め、生活上の不安を抱える高齢者への訪問や見守り体制強化	①課題が複雑化・複合化しているもの等は、様々な機関や手法を活用した連携方法を検討します。 ②ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯は増加傾向にあることから、孤立死の防止に向け、地域における安否確認や見守り体制の強化を行います。 ・計画目標:「ひらつかあんしんカード」配布や民生委員との情報共有を実施。新たにマンション住民向けに講話を実施。 (前年状況:コンフォール平塚の住民交流や情報提供の実施など。)	※取り組み内容(成果)が指標 A:例年より大きな実績をあげた。新たな取り組みが成果をあげた。 B:例年より実績をあげた。新たな取り組みを実施。 C:例年並み、または計画どおりに実施。 D:例年、または計画をやや下回る。 E:実施できなかった。	①包括事務所 ②圏域内マンション他	社会福祉士 全職員	A	—	達成	動けなくなった時に備え、今から考え対策をしておく必要性		

4 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務等

(1)前年度の取り組みに対する評価・実績												
・圏域内の居宅介護支援事業所へ訪問し、												